



# 学校だより

6月号

横浜市立大道小学校  
平成30年5月31日

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

検索

校長 富岡 正雄

1918（大正7）年、児童雑誌「赤い鳥」が創刊されました。今年でちょうど100年経ちます。この雑誌の中で、北原白秋は、次々と作品を発表しています。白秋は、九州の生まれですが、三崎や小田原に住んでいたこともあり、城ヶ島には詩碑もあります。

## 北原白秋が大切にした言葉「よ」

白秋は、歌詞の中に、「よ」という言葉をよく使っています。代表作としては、

「ゆりかごの唄」	「この道」
ゆりかごのうたを カナリヤがうたうよ ねんねこ ねんねこ ねんねこよ ゆりかごの上に びわのみがゆれるよ ねんねこ ねんねこ ねんねこよ (以下、略)	この道は いつかきた道 ああ そうだよ あかしの花が咲いてる あの丘は いつか見た丘 ああ そうだよ ほら 白い時計台だよ (以下、略)

「よ」が多く使われているのは何故でしょうか？

一説によれば、【人にその場の様子を伝える気持ちを強くするため】とされています。確かに、「よ」がある場合と無い場合では、伝わり方がだいぶ違う気がします。【情景と余韻】をしっかりと伝えるために「よ」を使って表現したようです。

## 言葉の価値創造

私たちは、毎日、多くの人と関わりながら生活をしています。日本人は、言葉に出さなくても相手の思いや考えを察知する能力が高いと言われることもありますが、実際には、

- ・自分の気持ちや考えが相手にきちんと伝わっているか？
  - ・相手は、こちらの気持ちや考えに対して、どう思っているのか？
- お互いが理解を的確にすることは難しいのではないのでしょうか。

### 【アサーティブ】という考え方

**【アサーティブ】**とは、直訳すると＜自己主張する＞という意味。ただ、自分の意見を無理に押し通すのではなくて、相手の意見も尊重しながら、率直に対等に思っていることを話す姿勢のこと。

- ・相手に、言葉として「何」を使うか？
- ・相手に、自分の意思として「何」を伝えたいか？

言葉に対する「価値観」は、人それぞれによって異なります。しかも、その時・その場の環境によって、言葉の意味が変わってしまうこともあります。

日々の生活の中で、相手の気持ちや様子を理解して、お互いのチャンネルを合わせるように努力することをしていきたいものです。

言葉の重要性とともに、相手を気遣っていることが伝わることも大切にしていきたいと考えています。誰もが気持ちの良いコミュニケーションができることを目指して各種教育活動を進めていきます。